



森のなかま

2021年 2月号

NO. 152 (継続297号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

緊急事態宣言発出に伴う対応について

政府から11都府県へ新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発出されたことを受け、かながわトラストみどり財団と連携し、対応を取っております。

これに伴い、緊急事態宣言中の県民参加の森づくり活動の自粛、各種研修会の中止を決めております。緊急事態宣言の延期によって、今後の活動の予定が変更することもありますので、参加予定の方は、トラストのホームページ <https://ktm.or.jp> 等で確認してください。

実施する活動では、本誌10月号に掲載した下記ガイドラインに沿って実施しています。

かながわ森林インストラクターの会活動再開ガイドライン

* 森林インストラクターとしての自分自身の行動と心構えが参加者の行動に大きく影響するということを認識して活動に臨みます。

- 1) 自分自身の体調は自分で管理して、体温などは常に把握する。
- 2) いつもと違うなど違和感がある時は活動に参加しない。
- 3) 常に三密（密集・密接・密閉）を避ける。
- 4) 他人との間隔を確保して、マスクを着用し必要ならフェイスシールドの使用を考える。
- 5) 手洗いと手指の消毒に努める。
- 6) 活動中も参加者の動きをよく観察して必要なら声掛けをする。
- 7) 具合の悪い参加者が発生したときは、活動を中断する。
- 8) プログラムの変更中止をためらわない。
- 9) 最後まで参加者の動きなどよく観察する。
- 10) インストラクター会の主催活動では参加者・連絡先名簿を作成する。

新年開運の破魔矢と絵馬を頂戴いたしました

今年も、当会賛助会員の鶴岡八幡宮 槐（えんじゅ）の会様より破魔矢と絵馬を頂戴いたしました。コロナ禍の早期収束と会員の作業安全をお願いして頂いております。

（事務局長 山口久基）



<森林部会> 径路整備研修会

日時： 2020年12月20日(日) 9:30~14:00 晴れ
 場所： 伊勢原市三ノ宮 ひじりの森 里山保全活動エリア
 講師： 森林部会 松永⑪、滝澤⑤、江上⑬
 スタッフ： 斎藤⑬、佐藤武⑤、部)岩田⑭
 研修生： 17名

(記 大友 博道⑯ 写真 斎藤 夏葉⑬)

年末の厳しい冷気に身を縮こませて伊勢原駅に集合。バスを降車し、ひじりの森に上がる坂道では日差しが暖かくなり、研修への気持ちが昂って来ました。オリエンテーション・岩田部会長の挨拶、佐藤氏によるひじりの森での活動紹介とスズメバチ飛来の注意喚起に少し緊張が走りました。

松永講師より丸太筋工の工法に関する講義を受け、準備体操を終えた後、3班に分かれて実習開始。

午前は広場下・林道脇で表土の流出防止・斜面を安定させるための丸太筋工の設置。L1000mmの丸太杭3本を打ち込みますが、地盤が強固なためなのか、屈強な？男達が力任せにカケヤを叩き込んでも杭は入りません。結局一本の杭を3人交代で約30cm打込むのが限界で疲労困憊。番線による横木丸太の固定は、最初は締込みが上手く出来ず悪戦苦闘。皆で「しの」の使い方など意見交換しながら試行錯誤の末、何とか見掛け良く設置完了。最後に班別の出来栄チェックがあり、番線の締め付け具合やクロスポイントの調整など手直しを行い、3基の丸太筋工の設置を終了しました。



杭打ち

昼食後は山の階段づくりで、間伐材を利用した丸太階段2段の実習。ポイント①作業前に完成をイメージし設置場所や階段の高さ・踏み面の長さを決定②調整は階段面と路面との設置部分を整地し見栄え良く。



丸太筋工の出来栄チェック

研修会では、径路設置の技術スキルの学びが第一義ですが、チーム作業でのコミュニケーションやメンバーの尊重・認め合うというヒューマンスキルの重要性も学びました。最後に新型コロナ第三波拡大の中、部会長、スタッフ、講師の方々が研修の企画・準備をしてくださり感謝を申し上げます。



階段はカスガイで杭と横木を固定

講師及び参加者一覧

1班 松永 廣	⑪	2班 滝澤 洋子	⑤	3班 江上 徹	⑬
大澤 斗志郎	⑩	湯浅 鉄男	⑪	宇田川 祐美恵	⑬
前田 弘美	⑬	水野 安則	⑭	河西 静夫	⑮
池田 修	⑯	飛田 尚弥	⑮	大森 善雄	⑯
岡村 寛	⑯	大友 博道	⑯	鈴木 康浩	⑯
田中 嵩大	⑯	小林 照夫	⑯	原田 明	⑯
中澤 良夫	⑯	中澤 靖彦	⑯		

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

第37回 古来草木染めに
使われてきた植物

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

古くから衣類の染料として使われてきた植物は数多くありますが、代表的なものを挙げて見ましょう。

藍の葉を使った藍染めはわが国で古くから行なわれてきた伝統的な染物の一つです。古代から行なわれてきた藍染めですが、最も盛んになったのは江戸時代でした。地域の戦も無くなり世の中が安定してくると共に町人文化も花開いてきたことがその理由です。藍(学名:*Persicaria tinctoria*)はタデ科の一年生植物でタデアイとも呼ばれます。藍染めは藍の葉を摘んだ後に、発酵などの数段階の処理を経て青色の染料として採りだされ、さらに糸に染色されて織物として仕上げられます。

わが国の藍染めはジャパンプルーの名があるようにその色合いの美しさで知られていますが、実はツタンカーメンの墓から藍染の衣が発掘されているように藍染は古代から世界各地で行なわれてきたのです。藍染めの青色を作りだしている化合物はインディゴという成分ですが、天然にはインディカンという化合物で存在し、それが加水分解されてインディゴになります。インディゴはタデアイに限らず他の植物にも含まれていて、世界各地で使用される植物が異なります。インディゴを含む植物で染めたものが藍染と呼ばれていますが、使用する植物によって青色の風合いが少しずつ異なります。今ではインディゴが合成され、藍染めに植物が使われるのも減少しています。

洋の東西を問わず昔から高貴な色とされてきたのが紫色です。聖徳太子が定めた冠位十二階で最も高位とされたのが紫でした。

紫色は古代エジプトやローマでも皇帝が身に着ける色だったのです。もっとも古代エジプトやローマでは植物からの紫色ではなく貝から採りだした貝紫によるものでした。

紫色は紫草(学名:*Lithospermum erythrorhizon*)の根から採りだされます。紫草はムラサキ科の多年草で古くは野草としてよく見かけた草ですが、現在では環境の変化によって野生種が激減し、絶滅危惧種に指定されています。

紫草の紫色はシコニンという成分によるものです。紫草の根を乾燥させた後に粉碎し、それを湯の中でもみこんで色素を抽出します。明治に入り化学染料が使われるようになるまでは紫草は栽培されていました。

万葉集には額田王が大海人皇子に送った歌

「あかねさす紫野行き標野(しめの)行き野守りや
見ずや君が袖降る」に紫草が詠われ、それに応えた大海人皇子の「紫草のにはほえる妹を憎くあらば人妻ゆえにわれ恋ひめやも」の歌があります。可憐な白い花を野に一面に咲かせる紫草は淡い恋の題材にも使われていたのです。



紫草の根には解毒作用や解熱、消炎作用があり、火傷、凍傷、湿疹などにも用いられます。日本薬局方では紫根の名で生薬として収載されています。

鮮やかな紅色に染め抜く紅花も古事記に記載されているように古くから親しまれていた染料植物の一つです。花も葉もアザミに似た紅花は黄色に紅色を交えた花を咲かせる多年草です。エチオピア～エジプト原産といわれていますので、インド、中国を通り長い旅路を経てはるか昔にわが国にたどり着いたのです。その花卉が染料として使われますが、花卉には黄色の色素と紅色の色素が含まれています。そこで、水溶性のサフラミンAなどの混合物からなるサフフラワー・イエローという黄色色素を水で洗い出した後に残る紅色の色素カルタミンを染料として使用します。紅花の色素は食品、口紅や頬紅などの化粧品用にも使用されます。

紅花は一名「末摘花」とも呼ばれます。茎の先の方から咲き始める花を、順に摘み採ることからこの名があります。源氏物語には光源氏に関わっていた末摘花という女性がいましたが、彼女の鼻が紅花のように紅いので源氏が名づけた名なのです。このようなことから源氏物語の時代から紅花は世に知られていたことをうかがい知ることができます。

紅花も紫草同様に薬理作用を持ち、活血、通経の作用があり、日本薬局方の生薬として収載されており、漢方では紅花(こうか)の名で使用されています。

(イラスト) 広報部 加藤 優美 ⑮

活動短信

今回の掲載はR2年11月26日-12月12日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

2月(如月)(旧暦1月睦月)の

二十四節気と七十二候

立春 2/4頃

氷が解け、ウグイスが鳴く。カエルも田んぼに卵を産みに来ます。

雨水 2/20頃

春の雨が降り、草木が芽吹く時期

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できればWord、メール直筆でもOK。Excelはできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合XX様

例 川崎市公園緑地協会・XX様

イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、本文を概ね400字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。



急坂を登るのが苦手な子供もいましたが、足元に注意しながら班の担当区域に到達し、インストラクターから間伐の意味と作業法について説明を聴いてから、いよいよ鋸を手にして作業を開始します。全てが初体験、はじめは、ほとんどの人が鋸を上手く曳くけませんが、インストラクターが何度も実演と説明をするうちに、次第に慣れてきて元気な掛声で作業する班も見られる様になりました。伐倒の時は大きな拍手と歓声、この瞬間、子供たちはどんな感動を味わったのだろうか。



全班とも予定の時間内に伐倒、枝切り、コースター作りの作業が終わり、森林講話の時間がもてました。学校の予定で、活動時間が3時間確保できたため、余裕を持った活動が出来ました。また、子供たちの態度から、学校での事前学習がしっかりされている様に見えました。コロナ対策も独自の対応を文書で提出していて、この体験にしっかり取り組んでいる姿勢を感じることが出来ました。

(記 写真 松石 藤夫⑬)

◆ 横浜市立さつきが丘小学校 間伐体験

日 令和2年11月26日(木)9:30~12:30

場 相模原市緑区 長竹承継分収林

参 118名(大人7名 子供111名)

財 内田様、大木様

イ L松石⑬、佐藤⑤、小野⑦、斉藤⑧、野牛⑧、
小沢⑨、松本⑪、西出⑫、星野⑬、竹内⑮、
飛田⑮、小林⑯、堀口⑯

昨日の雨があがって、青空に恵まれた朝になりました。良い体験活動になってくれることを願って活動を開始しました。子供たちの到着は、バスの渋滞で少し遅れましたが、9:30には活動が開始できました。

111名の大人数の参加でしたが、バスを降りてすぐに12班に分かれ、それぞれの担当のインストラクターに誘導されて森の入口へ。ここで、ヘルメット、鋸などの個人装備を身に付けると、子供たちは引き締まった真剣な表情になります。少し不安もあるのかな。

◆ 横浜市立奈良の丘小学校 間伐体験

- 日 令和2年12月2日(水)9:30~12:00 曇り
 場 相模原市緑区 長竹承継分収林
 参 先生7名、児童66名、計73名
 財 豊丸課長、内田様
 イ L 西出⑫、井出①、佐藤⑤、松本⑪、松永⑪、
 星野⑬、松石⑬、牧石⑭、竹内⑮

天気予報通り、午後は雨が降り出しましたが、午前中は曇り空、風が冷たく、真冬の寒さの中、みんなで力を合わせて樹高7m程のヒノキを間伐しました。倒れた瞬間、地響きと大きい音がして、みんなで拍手をして喜び合いました。

予定通り、9時30分に子供達が葦尾根ふれあい広場に到着、班毎に道具置き場へ移動して、ヘルメットなどを装着してから、森の中を10分程歩いて現場に向かいました。作業開始前に、森の学習(森の働き、間伐の意義)をして、インストラクターの指示の下、作業を開始しました。まず、倒す木を選木して、ロープを掛け、いよいよ大鋸を使って木に受け口、追い口を入れます。子供達は、初めは思う様に大鋸が引けませんが、その内、慣れてきて上手に使えるようになりました。伐倒の準備が整ったら、みんなで力を合わせて



木に「受け口」、「追い口」を入れた後、皆で力を合わせてロープを引いて、木を倒します

ロープを引きます。狙った方向に見事に倒れると、皆さん、うれしそうでした。その後、倒した木の枝を払って、玉切り(適当な長さに木を切断)をして、その後、倒した木から各自がお土産のコースターを作って、作業を終えました。皆さん、「楽しかった」と言って帰路につきました。

(記・写真 西出 健一 ⑫)

◆ 横浜市立鉄(くろがね)小学校 間伐体験支援

- 日 令和2年12月4日(金)9:30~11:45 晴後曇
 場 相模原市緑区 長竹承継分収林
 参 19名(5年生児童15名 教師4名)
 イ L 竹内⑮ 松本⑪ 西出⑫

冬本番となった葦尾根の麓に、時折冷たい風が吹きます。ヒノキ林のミドリが、青空をバックに鮮やかに光っているようでした。当初予定より30分前倒しになった9時半、鉄小学校5年生15名が、集合場所「葦尾根ふれあい広場」に到着しました。15名?そうです、鉄小学校は全校合わせて160名足らず。特に5年生は15名の少数精鋭なのです。その分まとまりが良いので、素早く2班に分かれます。



早速インストラクターが引率し、ノコギリ、ヘルメット、フェイスシールドを付けて森に入りました。事前学習の成果で、間伐手順の説明も直ぐに理解でき、ロープ掛けまではスムーズでした。



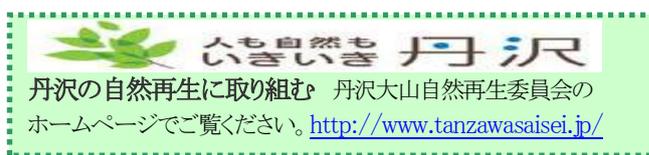
ただし、頭で分かるのとノコギリを実際に挽くのは大違い。始めは日頃持ち慣れないノコギリに四苦八苦でした。それでも受け口、追い口もなんとか無事終了。いよいよロープを引いて倒します。掛かり木にはなりますが、インストラクターがツルを細めて廻すようにしてさらに引くと、見事ズシ〜と倒れ

ました。このときの、目を見張る子ども達の表情が良いんですね。枝払い、玉切りはスムーズ。まだ15分程時間が残っているので、インストラクターが各自用意したプリントを使って、森のミニ授業をします。間伐で明るくなった樹間の意味を考えてもらいます。間伐体験に終始付き添っていた先生達から、楽しい授業だった来年も是非、との感想を頂きました。11時45分、予定通り迎いのバスに乗って生徒達は昼食会場の愛川公園に向かいました。（記・写真 竹内明彦⑮）

◆ 第16回県民参加の森林づくり（除伐）

日 令和2年12月5日（土） 9:30～12:00 雨
場 中井町比奈窪
参 38名
財 内田様 大木様 藤本様
看 石井様
スタッフ 南足柄市森林組合 高橋様
安パト 齊藤夏⑬ 岩田⑭
イ L小野⑦ 佐藤恭① 柏倉④ 湯浅⑪ 西出⑫
 古館⑬ 黒川⑭ 谷⑭ 飛田⑮ 中澤良⑯

予報は曇りだが夜明前より雨で実施が懸念されたが定刻秦野駅南口に関係者全員集合して打合せ開始。雨も止む気配が無く実施方法を協議検討した結果、雨具を装着しての実施と決定して受付開始、コロナ対策として検温実施とマスク着用をチェックしたのち雨具の持参を確認して班別にバス5台に分乗して中央公園野球場脇の駐車場へ。自車での参加者を受付した結果38名の参加となった。海の風展望広場へ移動して本日の作業内容を説明。場所は昨年実施した個所の再整備・除伐対象はヤマツツジ、イロハモミジを除く雑木とし、天候によっては繰上げ終了も有る事を説明して用具装着後作業開始、昨年整備した場所の太い木も無く参加者も概ね剪定鋏使用でした。林内は広葉樹の大径木が点在する気持ち良い場所だがナラ枯れにより枯損木やフラスの発生が見られ、インストラクターによる説明等にて皆さんも改めて県内の被害の広がりを実感されたと思います。雨脚は弱まらず参加者の健康と作業の進捗状況を勘案して10時半には作業終了を決断。終始冷たい雨の中頑張った参加者に感謝し怪我もなく終了出来た事に安堵した活動でした。（記 小野幸広⑦）



◆ 横浜市立上上小学校 間伐体験

日 令和2年12月 9日（水） 曇り
場 足柄市内山 県立21世紀の森 風切り水源林
参 69名（大人9名 子供69名）
財 内田様、藤本様
イ L牧石⑭ 滝澤⑤ 齋藤⑧ 吉田⑪ 松本⑪
 星野⑬ 松石⑬ 黒川⑭ 大友⑯

当日は曇り空、最高気温11度の中で皆さん元気に間伐活動を実施しました。



小学校を予定より10分早め出発されたことで、スケジュールとおりの時間に到着していただいた。10時～活動をスタート。小学校の生徒代表者より始めの会で「よろしくお祈いします」の挨拶後、用具を装着し約20分歩き「風切」水源林に到着。区画された場所で班毎に分かれ、10時30分～11時まで「間伐手順説明、間伐の必要性の説



明、選木、ロープ掛け」を全班で終了させ、殆ど枝掛も無く全班、見事に伐倒させた。

間伐体験後、生徒より「木を伐ることは大変だけど楽しかった」「檜のコースターを作れて良かった」「鋸を買いたい価格を知りたい」「楽しかった今日の貴重な体験を家族に話す」「鋸の練習をしてきた」「森の木を遠くから見て、木だけと思っていたが、実際森の中に入り様子が分かった」など、多数の感想を聞かせていただき、予定どおり無事終了しました。参加された皆様、お疲れ様でした。
(記、写真 牧石 稔⑭)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 第17回県民参加の森林づくり（除伐）

日 令和2年12月12日(土)8:30~13:30 曇後晴
場 相模原市中央区田名塩田(市有林)
参 一般51名(大人39名 子ども12名)
財 大木様、古舘様
看 下平様

スタッフ 相模原市みどり環境課 小泉様、中村様
相模原市まち・みどり公社 細谷様、山崎様
塩田自治会 白井様
津久井郡森林組合 永井様

イ L 宮下⑩、佐藤⑤、瀧澤⑤、野牛⑧、波多野⑨、
上田⑩、山下⑪、松本⑪、宇田川⑬、鈴木⑭、
谷⑭、大友⑯、久慈(真)⑯、小林⑯、
中澤(良)⑯、原田⑯

天気も良く比較的暖かい絶好の活動日となりました。本日の作業は除伐。今回の現場は、相模原市中央区塩田にある相模原市の市有林です。相模川の側に位置する工業団地と住宅地として整備された地区の一角にあり、塩田自治会や田名塩田の自然を愛する会の方々が里山の自然を復活させようと森林整備を始めた場所です。参加された方々は初心者からベテランの方まで多様で、ボーイスカウト・高校生といった若い世代も参加されていました。

作業開始前に相模原市を始め各団体から挨拶をいただき、準備運動の後、班毎に分かれ道具を受け取り現場に向かいました。今回の安全目標は



「周囲の安全確認」。

現場は侵入した竹や棕櫚、雑木が茂り薄暗く、以前切り倒した竹や木が各所に置かれていたので、まずは現場の片付けを行い作業の安全確保を行いました。除伐の作業地には竹が多いエリアと棕櫚や雑木などの侵入木が多いエリアがありました。倒す方向や作業範囲に人がいないかなど、周囲の安全確認をしながら作業を行いました。

伐採が終わり倒木などを片付けた後、明るくきれいになった現場を見た参加者の皆様の顔は満足そうで、特に若い世代の方々が「とても楽しかった」、「やりがいがあった」と言ってくれたことが印象的でした。

事故もなく、予定通り作業を進めることが出来、安全目標の「周囲の安全確認」を各班共実行できた活動となりました。

(記 波多野 慶⑨ 写真 宮下 修一⑩)



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

12月から2月までは、森の案内人はお休みです。

森の案内人はおりませんが、やどりき水源林を訪れることはできます。

なお、現在昨年の台風被害の復旧作業が進められており、立ち入り禁止の区域がありますので、訪問の際には、下記神奈川県のホームページにてご確認ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/yadoriki.html>

「やどりき水源林ニュース」

<http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02>

●問合せ:

(公財)かながわトラスティみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

緊急事態宣言に伴う対応

冒頭の記事にもありますが、新型コロナウイルス感染防止の緊急事態宣言発出に伴い、森林インストラクターの活動も中止等の対応がとられています。

- ・県民参加の森林づくり
緊急事態宣言中の
2/6 大磯 竹林整備中止
- ・当会の活動
1/30 探鳥会 中止
- ・トラスティみどり財団の研修
1/23 ブラッシュアップ研修 中止
- ・県民センターなどの施設が閉鎖中なので、会報発送が滞り遅れることが予想されます。ご承知おきください。
(広報部 黒川 敏史)

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 加藤優美 阿藤壽孝 竹内明彦
柳澤千恵美 小林照夫 武田昭典 中澤良夫
支援: 大原正志 江頭淑子

森のなかまは過去号もご覧になれます。
(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: cherril@gk9.so-net.ne.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 壽孝

Tel: 045-433-4413

Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受け付けています。



オオバン

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集後記

★在宅勤務はだんだん慣れてきましたが、コロナ禍前より目の疲れを感じるようになりました。眼精疲労について、インターネットで調べてみると、目を休ませる、目を温めるなどありましたが、一番の特効薬は緑を見ることかなと思い小さなサボテンで目を癒しています。
(笠原)

★またしても、コロナ！！

1都4県で秋からずーっともやもやしていたコロナの発生が年末から急激に増加。GOTOトラベルも一切利用せず、自宅近辺で嵐の過ぎ去るのを待っていたのに・・・
桁違いの感染数に再度の巣ごもり。出来ることは只待つことだけ。
(吉田)

★今年の冬も我が家の庭に野鳥(メジロ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ヤマバト)たちがエサをついばみに来るのを楽しく見てます。
しかし数匹の鳥インフルエンザ感染した養鶏が出ただけで何万羽と殺処分されるニュースには心を傷められます。
(阿藤)

★コロナ禍の中、人の少ない、いない所(主に境川沿い)をマスクをし運動しています。
時々カメラを持参します。今年は水鳥が沢山飛来しています。昔言葉のアベックのオオバン、コガモ、昨年は見れなかったマガモ(♂は綺麗です)等。シジュウカラ、メジロ、カワセミ・・・ズメが沢山。
(松本)

★昨春の手入れが出来ず、荒れてしまった竹林に入りました。枯れ竹、倒竹を整理すると、風通しが良くなり、木漏れ日が射してきました。さらさらと音を立てる竹の葉が、冬ももうすぐ終わると告げています。「気ぶっせい」コロナ禍を忘れる一時でした。
(竹内)

★コロナ感染者急増に伴う緊急事態宣言発出で、会報の発行が再び影響を受けています。今回の感染者数増加は、憂慮すべきレベルですね。感染者の報告が割と身近なところに迫ってきている気がします。慎重に行動しましょう。
(黒川)